

滞留水の貯蔵及び処理の状況概略

①建屋内滞留水水位及び貯蔵量

・建屋内滞留水水位は運転上の制限を満足

②1~4号機タンク貯蔵量

・淡水化装置による処理により、RO処理水(淡水)及び濃縮塩水の貯蔵量は変動あり
・蒸発濃縮装置は全台停止中

③5, 6号機滞留水貯蔵量

・構内散水によりFエリアタンク貯蔵量は変動あり

④廃棄物発生量

・除染装置停止中のため、廃スラッジ貯蔵量は変動なし

①建屋内滞留水水位及び貯蔵量

施設	貯蔵量	T/B建屋内水位
1号機	約2,290m ³	※7
2号機	約7,440m ³	T.P.-306
3号機	約8,790m ³	T.P.-313
4号機	約7,870m ³	T.P.-357
合計	約26,390m ³	

(合計):+950[m³/4週] (合計):-890[m³/週]

貯蔵施設	貯蔵量	水位
プロセス主建屋	約11,070m ³	T.P.1,402
高温焼却炉建屋	約2,600m ³	T.P.-100
合計	約13,670m ³	

(合計):+3370[m³/4週] (合計):+1560[m³/週]

	貯蔵量	貯蔵容量
廃液供給タンク	682m ³	1,200m ³
SPT(B)	1,663m ³	3,100m ³
合計	-622[m ³ /4週]	+157[m ³ /週]

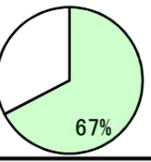
④廃棄物発生量

廃スラッジ



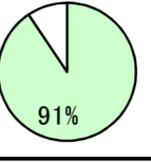
保管量:597/700[m³]*3

使用済ベッセル



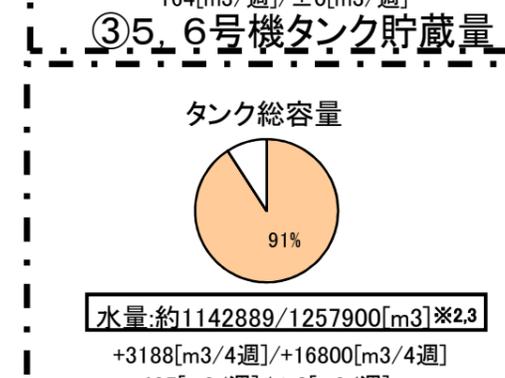
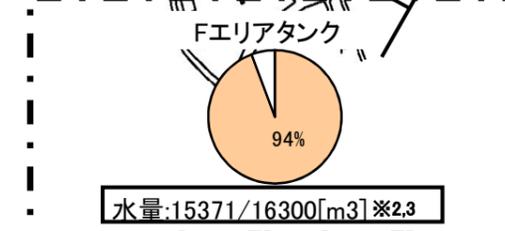
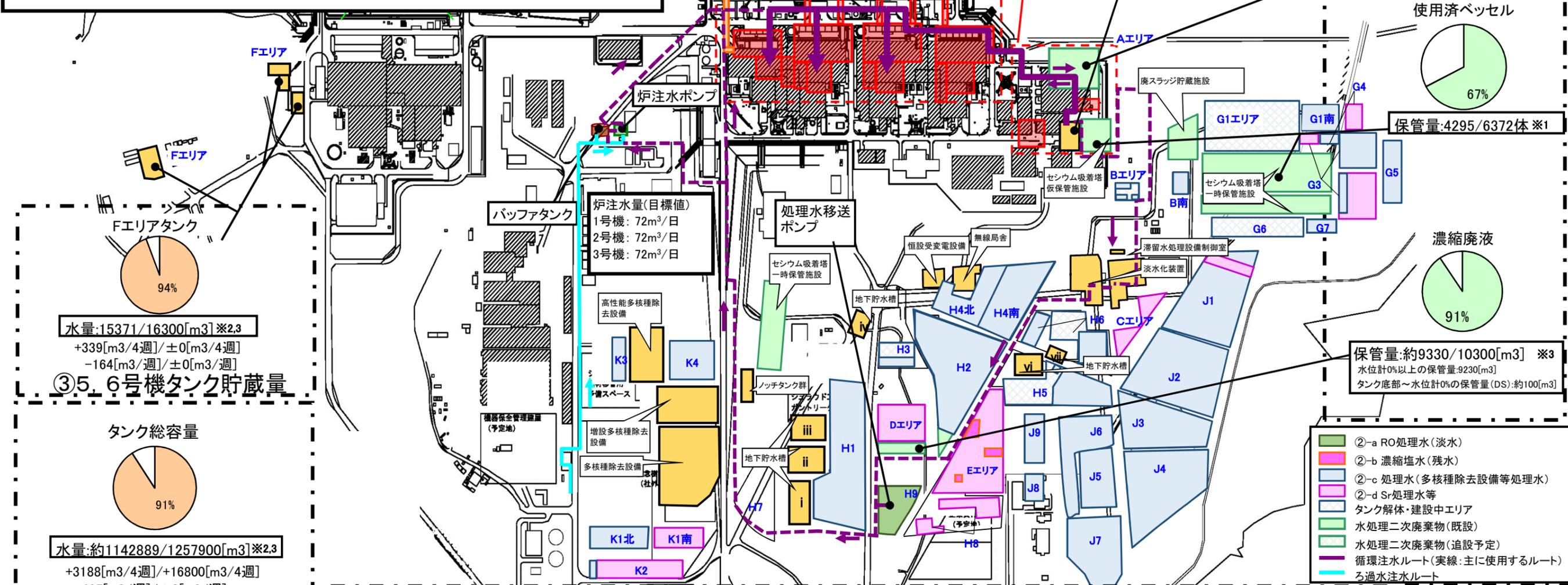
保管量:4295/6372体*1

濃縮廃液

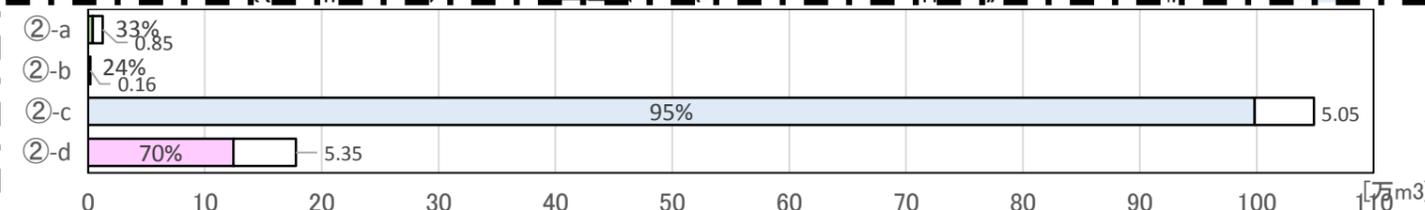


保管量:約9330/10300[m³] *3
水位計0%以上の保管量:9230[m³]
タンク底部~水位計0%の保管量(DS):約100[m³]

- ②-a RO処理水(淡水)
- ②-b 濃縮塩水(残水)
- ②-c 処理水(多核種除去設備等処理水)
- ②-d Sr処理水等
- タンク解体・建設中エリア
- 水処理二次廃棄物(既設)
- 水処理二次廃棄物(追設予定)
- 循環注水ルート(実線:主に使用するルート)
- ろ過水注水ルート

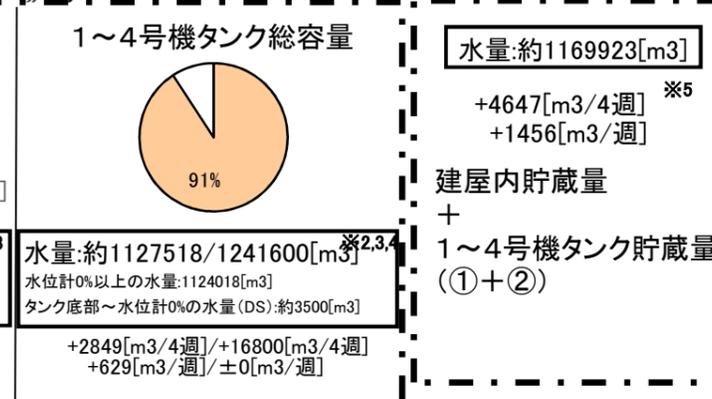


タンク貯蔵量合計(②+③)



Category	Water Volume [m ³]	Change [m ³ /4週]
②-a RO処理水(淡水)	約1117/12600[m ³]*2,3 水位計0%以上の水量:3217[m ³] タンク底部~水位計0%の水量(DS):約900[m ³]	±0[m ³ /4週]/±0[m ³ /4週] ±0[m ³ /週]/±0[m ³ /週]
②-b 濃縮塩水(残水)	約500/2100[m ³]*2,3 水位計0%以上の水量:約400[m ³] タンク底部~水位計0%の水量(DS):約100[m ³]	±0[m ³ /4週]/±0[m ³ /4週] ±0[m ³ /週]/±0[m ³ /週]
②-c 処理水(多核種除去設備等処理水)	約998372/1048900[m ³]*2,3,4,6 水位計0%以上の水量:996472[m ³] タンク底部~水位計0%の水量(DS):約1900[m ³]	+3012[m ³ /4週]/+16800[m ³ /4週] +142[m ³ /週]/±0[m ³ /週]
②-d Sr処理水等	約124529/178000[m ³]*2,3 水位計0%以上の水量:123929[m ³] タンク底部~水位計0%の水量(DS):約600[m ³]	-163[m ³ /4週]/±0[m ³ /4週] +487[m ³ /週]/±0[m ³ /週]

②1~4号機タンク貯蔵量

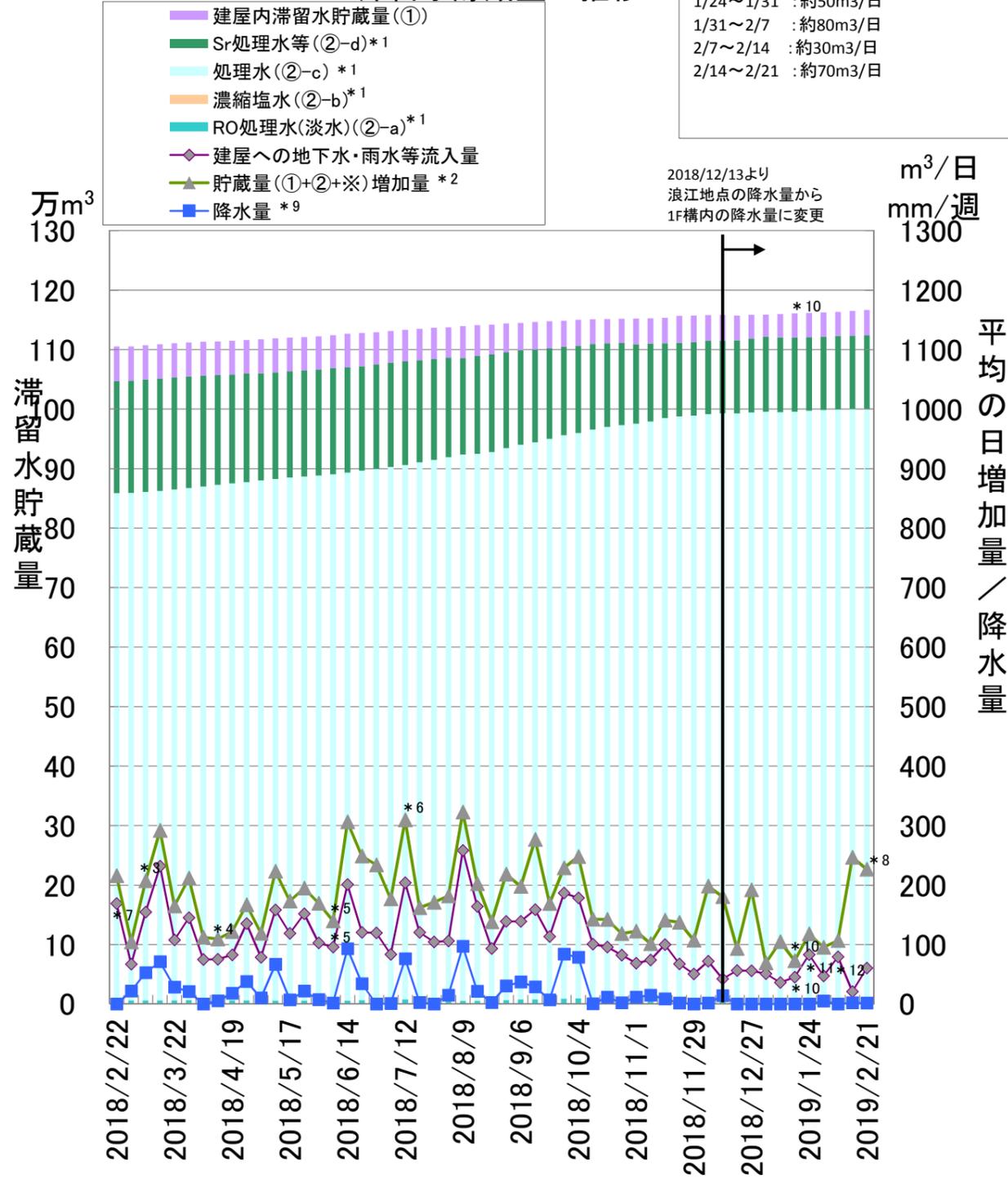


建屋内貯蔵量 + 1~4号機タンク貯蔵量 (①+②)

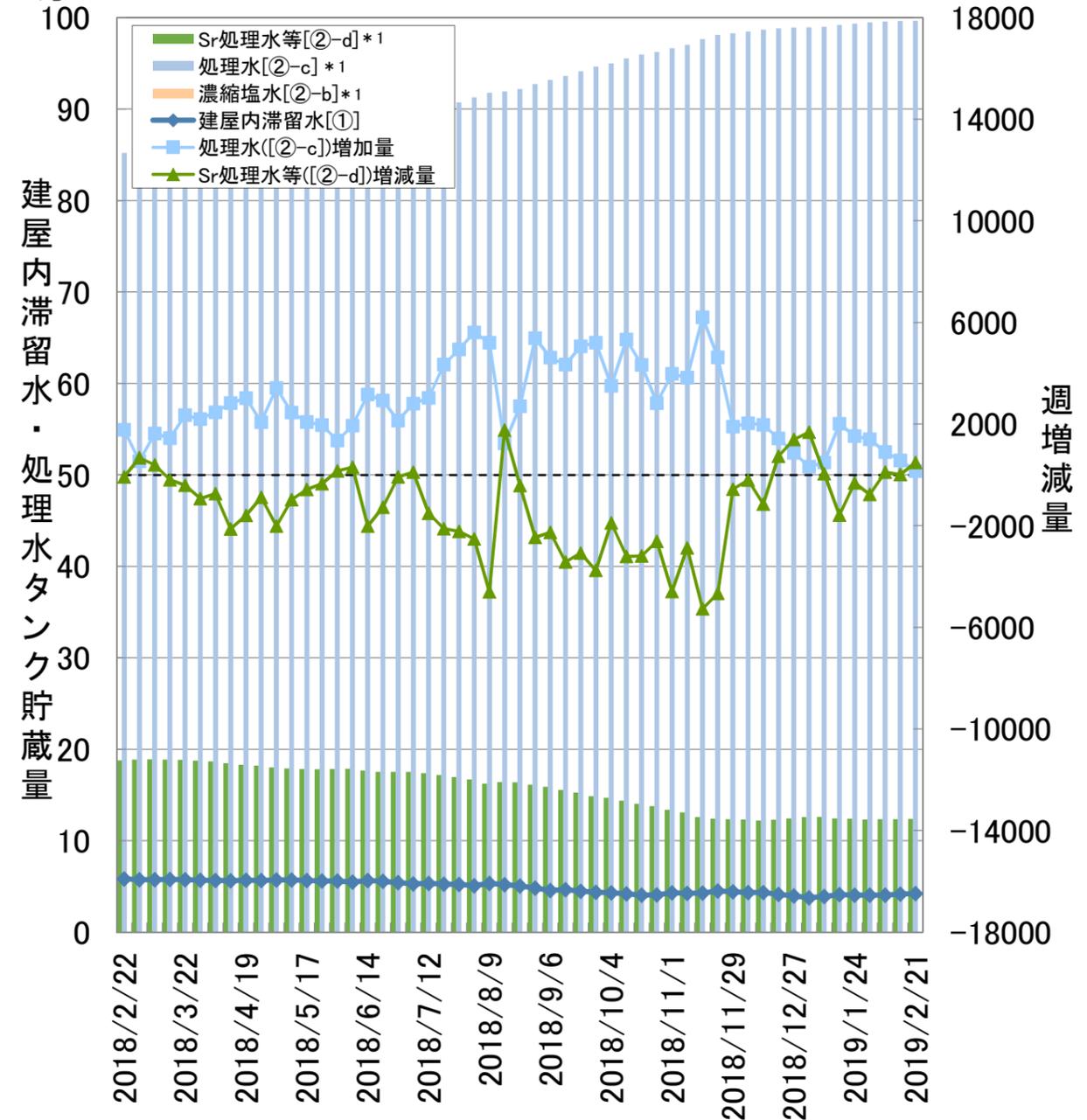
※1 第二セシウム吸着装置使用済ベッセル及び多核種除去設備の保管容器、処理カラム及びモバイル式処理装置使用済ベッセルを含む
※2 装置稼働中につき水位が安定しないため参考扱い
※3 貯蔵容量は運用上の上限を示す(タンクの貯蔵容量は10の位を切り捨てて表記)
※4 多核種除去設備等(ホット試験中)の処理済水を貯蔵するが、タンクの運用状況に応じて淡水や濃縮塩水を貯蔵
※5 ウェルポイント・地下水ドレン(約60m³/週)、サイトバンカからプロセス主建屋への移送量(約640m³/週)、その他移送量(約460m³/週)の合計約1160m³/週を含む(端数処理上、各移送量の総和と異なる場合がある)
※6 放射性物質濃度が高い多核種除去設備B系出口水を含む
※7 1号機T/Bはすでに水抜きが完了しているため、水位を「-」表記する。
※8 フランジ型タンクに貯蔵するSr処理水の処理完了(2018/11/17)引き続き、残水処理を進める観点から、以後、フランジ型タンクのタンク底部~水位計0%の水量(DS)は水位計0%以上の水量に含める

滞留水の貯蔵状況の推移

滞留水貯蔵量の推移



万m³ 建屋内滞留水、濃縮塩水及び処理水、Sr処理水等の推移m³/週



- ①: 建屋内滞留水貯蔵量(1~4号機、プロセス主建屋、高温焼却炉建屋、廃液供給タンク、SPT(B))
- ②: 1~4号機タンク貯蔵量(〔②-aRO処理水(淡水)〕+〔②-b濃縮塩水〕+〔②-c処理水〕+〔②-dSr処理水等〕)

※: タンク底部から水位計0%までの水量(DS)

- *1: 水位計0%以上の水量
- *2: 貯蔵量増加量の精度向上として、2017/2/9より算出方法を以下の通り見直し。(2018/3/1見直し実施)
〔(建屋への地下水・雨水等流入量)+(其他移送量)+(ALPS薬液注入量)〕
- *3: 右記評価期間は、建屋水位計の校正の影響を含む。(2018/3/1~3/8:3号機タービン建屋)
- *4: ALPS薬液注入量の算出方法を以下の通り見直し。(増設ALPS:2018/4/12より見直し実施)
〔(出口積算流量)-(入口積算流量)-(炭酸ソーダ注入量)〕
- *5: 2~4号機タービン建屋海水系配管等トレンチの滞留水貯蔵量の計算式見直しを踏まえ、再評価を実施。(再評価期間:2017/12/28~2018/6/7)
- *6: 1号機海水配管トレンチからの移送量の管理方法見直しを踏まえ、再評価を実施。(再評価期間:2018/5/31~2018/6/28)
- *7: K排水路補修作業の影響で、建屋への流入量が増加。
- *8: 廃炉作業に伴う建屋への移送により貯蔵量が増加。
(移送量の主な内訳は①ウエル、地下水ドレンからの移送:約8m³/日、②サイトハンカ建屋からプロセス主建屋への移送:約90m³/日、③4号機CSTから4号タービン建屋への移送:40m³/日他)
- *9: 2018/12/13より浪江地点の降水量から1F構内の降水量に変更。
- *10: 2019/1/17より3号機C/B滞留水を建屋内滞留水貯蔵量に加えて管理。建屋への地下水・雨水等流入量、貯蔵量増加量については2019/1/24より反映。
- *11: 2019/1/17の建屋内滞留水の水位低下の影響で、建屋への地下水・雨水等流入量が増加したものと推定。
- *12: 建屋水位計の取替えを実施。(2019/2/7~)

処理水	累積処理水	期間処理水		定格処理量
	[m ³]	[m ³ /週]	[m ³ /日] ^{注1)}	[m ³ /日]
既設多核種除去設備 ^{注2)}	399,710	3	0	750以上
増設多核種除去設備 ^{注2)}	527,506	139	20	750以上
高性能多核種除去設備	102,556	0	0	500以上
高性能 検証試験装置	1,128	0	0	50
Sr処理水等	期間処理水		定格処理量	
	[m ³ /週]	[m ³ /日] ^{注1)}	[m ³ /日]	
セシウム吸着装置	627	90	600	
第二セシウム吸着装置			1200	

注1) 週間の平均値

注2) 既設・増設多核種除去設備処理水の一部は、残水があるRO濃縮塩水タンクに移送し、Sr処理水等として貯蔵